

平成 29 年度第 1 回総合教育会議 議事録

1 開催日時

平成 29 年 5 月 17 日（水） 16：30～18：00

2 出席者

(1) 構成員

市 長	園田 裕史
教育長	遠藤 雅己
教育委員	永田 政信
教育委員	渡邊 敬
教育委員	佐古 順子
教育委員	村川 一恵

(2) 説明者

教育政策監	丸山 克彦
教育次長	上野 真澄
教育総務課長	三岳 和裕
学校教育課長	江浪 俊彦
学校教育課参事	本多 修司
社会教育課長	喜々津 武利
文化振興課長	大野 安生
教育総務課係長	内野 一嗣
こども未来部長	川下 隆治
スポーツ振興室長	出口 孝
商工振興課長	浦山 優

(3) 事務局

企画政策部長	山下 健一郎
企画政策課長	浦山 聡
企画政策課係長	松園 洋平
企画政策課職員	宮田 淳仁

3 協議事項

(1) かけがえのない自他の生命について ～家庭・学校・地域の役割～

(2) 平成 29 年度教育への取組について

(3) 大村市教育大綱

「3 自分らしく生きるための学びの支援」について

「4 歴史・伝統を尊重するとともに多様な文化・価値観を学ぶ環境づくり」について

(4) その他

4 経過

企画政策部長 山下 健一郎

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本日の司会を務めます大村市企画政策部の山下でございます。よろしくお願いいたします。4月1日の機構改革によりまして、今までの所管、市長公室から企画政策部という形で担当させていただいております。今回事務局の方も異動をしておりますので、私の方から紹介をさせていただきます。まず企画政策課長の浦山でございます。

企画政策課長 浦山 聡

浦山です。よろしくお願いいたします。

企画政策部長 山下 健一郎

企画政策課の係長の松園です。

企画政策課係長 松園 洋平

松園です。よろしくお願いいたします。

企画政策部長 山下 健一郎

いま会場の外にありますが、担当職員の企画政策課職員、宮田でございます。

今日はですね、説明者として後から入ってくると思いますが、スポーツ振興室の出口室長並びに商工振興課長の浦山課長がまいりますので、よろしくお願いいたします。まずお手元の資料の確認をお願いいたします。配布しております資料は次第、資料1、出席者名簿ですね、資料2、配席図、資料3、平成29年度施政方針説明、資料4の教育委員会重点目標、資料5の大村市教育大綱、資料6、教育大綱資料となっております。不足等がございましたらお知らせいただければと思います。それではさっそく、次第に沿って進めてまいりたいと思います。開会に当たりまして、大村市長園田裕史がご挨拶を申し上げます。

大村市長 園田 裕史

皆さん、こんにちは。本日は平成29年度の第1回目の総合教育会議に、大変お忙しい中お集まり

いただきまして誠にありがとうございます。そしてまた、今年度もよろしく願いいたします。そして、ここ最近はですね市民の皆さんからも、また市議会からも傍聴に来ていただいております。本日もありがとうございます。先ほど担当部長の山下が説明をいたしました、4月の機構改革がございまして、一部説明担当の職員も変わっております。さらに先ほど教育委員会で、教育委員会が終わられたと思いますが、この教育委員会の体制をですね、新たに遠藤雅己教育長、また丸山政策監、文部科学省から来ていただきました。上野次長にもそのまま教育委員会にしっかりサポートしていただきまして新たな体制で進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。ご承知と思いますが、山下部長は前教育次長でございますので、こういった形で総合教育会議が行えるというのは、いよいよ更に具体的な新たな、また更に充実した教育行政を、私市長としても教育長はじめ教育委員会としてもしっかりタッグを組んで進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

企画政策部長 山下 健一郎

協議にさっそく入りたいと思いますけれども、本日、市長、遠藤教育長が18時から次の公務が入っております、終了時間を17時45分までという形で進めさせていただきたいと思いますので、申し訳ございませんが、よろしくお願いいたします。それでは次第3、協議に移ります。ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領に従い市長が行いますので、園田市長よろしくお願いいたします。

大村市長 園田 裕史

はい、よろしくお願いいたします。ちょうど私就任して1年半になりますが、総合教育会議ここまで重ねてきました。私の運営もなかなか上手じゃありませんので、どうしても皆さんのご意見が出やすい雰囲気になっていなかったり、ちょっ

と形式的な流れも多かったのかなと反省も踏まえてですね、もう少しざっくりばらんにと言ったら怒られますけども、皆さんからご意見をいただけたらと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。まず協議事項の第1項目目でございますが、かけがえのない自他の命について、家庭、学校、地域の役割という形で議題に挙げさせていただいております。本件については、先般、教育委員の皆様にもご説明をさせていただいたと思えますし、昨日の臨時議会の後の全員協議会においても、議員の皆様にもこれまでの状況をご説明をさせていただきました。大村市内の生徒の死亡事案についてのことも含めてでございます。この件に関してのことだけではなくてですね、今、全国的にも自分自身の命をどう考えるのか、また、他人の命をどう考えるのか、家族だったり兄弟だったり地域だったりそういった中で、しっかり学校はもちろんですけども、家庭や地域連携して自他の命をどうやって守っていくのか、またそういったきつい状況に子ども達が陥らないようにサポートできるのかということについてですね、皆様からぜひ自由闊達なご意見を頂戴したいと思っております。教育委員会の中でもご意見色々あったかと思えますけれども、また改めて私も勉強してまいりたいと思っておりますので、ぜひ今回の事案も含めてですね、しっかりサポート体制をこのような形で更に強化をしていきたいというようなご意見がありましたらぜひお聞かせいただければと思っております。よろしく願いいたします。皆様からごさいませんでしょうか。

教育委員 村川 一恵

不登校とかいろんな子ども達の悩める状況を、どれだけ早く察知してどういうふうフォローしていくかっていうのは、学校の役割でもあるんですけども、とにかく一番近くにいるお母さんやお父さん、保護者がどういうふう子ども達を見守れるかなっていうところをすごく、先般の案件から考えてるんですけども、特に男の子だった

り思春期の男の子だったりすると、そもそもお母さんと話す機会がなくなって、うまく話せなくなるっていうのもよく聞きますし、そしてお母さんもどう声かけをしていいかわからない、あと不登校になってたりすると、そういう状況で親もすごく苦しい状況があるんじゃないかなって思うんですよね。子どもが学校に行かなかったり苦しかったり何か悩んでる時に、本当に親も同じように悩んでるんだらうなっていうところで、親も苦しんでるところでつい子どもに叱ったりとか、子どもが本当に必要とする答えをととか、対応できない保護者も多いんじゃないかと思うんです。今こういう世代で、こういう時代で3世代家族だったりしないと、おじいちゃんおばあちゃんのフォローがないとか地域の人達のフォローがないとかそういう中で、親も孤立してしまうという状況をすごく心配してまして、そういったところから親も助けないといけない。そして親を助けた上で子どもと一緒に助けていける方法を何か見つけられないかと思ったら、やはり地域の繋がりが大切だなとすごく考える機会になりました。もし悩んでる子どもがいたら、個人情報等々あるかもしれないんですけども地域の人助ける体制を考えられないかなと、今、市長に相談したいなと思ったんですけども。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。ずっと昨年からも言ってます、地域の協力体制をってところで本市はありがたいことに人口が増えているんですが、やはり若い方の転入というのも多いし核家族も多いと思います。一方で地域の交流は地域にお邪魔するんですね活発だと思うんですが、数字的に見ると町内会の加入率も低下をしてきていて子ども会の加入率も低下をしていて、先般市政だよりも載せて前回も議論になったかと思いますが、地域の行事に参加をしているかという質問項目のパーセンテージが県内でも極めて大村は低いというところがありまして、前回からの続きという

ことになるかもしれませんが、地域をどう学校現場、家庭と繋げていくかということなのかなと思いますね。それとお母さんが楽に相談できるようにというような体制を考えていかないといけないなど。相談する人がいなかったり、近くにおじいちゃんおばあちゃんがいなかったり、そういう状況もあると思いますので、何かしらサポート体制を進めていけたらなと考えているところがございます。皆さんから他にご意見ございませんでしょうか。

教育委員 永田 政信

よろしいですか。学校サイドからの話になるかと思いますが、私一番思うのがですね、バランスの良い子ども達を育てていかなければならないんじゃないかと思います。命の教育ということが話題になりますと、私はどうしても佐世保の女子高生の事件を思い出してしまうんですね。あれを思い出してみると、バランスがどうだったのかなというふうなことを思うんですね。頭が先にきて心と体の方がちょっとバランスを欠いてたんじゃないかなと思ったりします。私はこの話になった時にいつも例に出すのがですね3階建ての家の事を引き合いに出すんですけども、こんなお話です。インドのお話なんですけども、あるお金持ちさんが地方を見て回ったと。そしたらその行った所です、3階建ての家を建設しておったと。それですぐできるわけがありませんよね。家っていうのはですね。1階、2階、3階と順にやっていくんですけども、その家を発注した主人が待てないわけですね。1階ができて2階、まだ3階はできないのかというふうなことで、とうとうこんな事を言ったと。もう1階2階はいらないから3階だけ建てろというふうな事を言ったと。だからそれを人間に置き換えてみた時に、頭だけがあるんじゃないかと頭の前提としてはやっぱり体がしっかりあること。そして心がきちんと育っていること。その上の頭かなというふうに思いますね。だからそういうふうな、それは順番じゃなくて一

緒くたなんですよ。一緒に育って家は建てていかなきゃいけないし、人間のあれも一緒に育っていかないといけないんだよというふうな事を感じるわけですね。だから小学校、中学校で教育をしていく場合にやはりそういったものをバランス良く指導をしていく、学ばせていくっていうふうなことが大事なことなのかなと思ったりいたします。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。そうですね、特に家庭教育の中で親御さんが子どもに接するときに、そういったことを深く考えていただけるようなアプローチができるといいなと思ひまして、やっぱり焦ってる感じも親御さんたちの中にもあられるのが全体的にそういう事もあるのかなと思うところもありますので、学校側からもそうですし行政サイドからも地域からも家庭にアプローチできるような体制をしっかりチェックしてまいりたいと思っております。皆さん、ないですか。

教育委員 佐古 順子

かけがえのない生命、先程も先生が教育について、大事なことを話してくださいました。まあ自分に言い聞かせるといいますか、子育てをして思うことは、トマトはトマトの良さがある。メロンでないのにメロンを育てようとしたら失敗するのでトマトの良さでしっかり育てようと思うんですけど。つつい目先のことが先に出てしまっていて母親としても不安定な時期がありました。やはり一生懸命子どもを見守ることと、そして温かく迎えてあげることが大事だと思ひました。学校では今スキンシップを大事にして子どもを抱っこしたりとかそういう教育があったと思ひます。温かく子どもを受け入れてあげるいろんな形が、家庭だけではなくて、学校でも地域でも、自分を認めてもらえるところがたくさんあるというところから、子どもは心が安定していくんじゃないかなと思ひてます。

教育委員 渡邊 敬

かけがえのない自他の生命という事で家庭、学

校、地域の役割なんですけども、昔我々が教わった50年以上前の学校、地域と比べるとかなり変わってきたなと思って。グローバルという言葉がありますけどもグローバルに、みんな情報が得られると。都合のいい情報を得やすくなってる世の中だろうと思います。子どもにとってはやっぱりバランスのいい育ち方をすることが、なかなか難しくなってるんじゃないかと思うんですね。そこをどうするか。グローバルというのが大事なんだろうと思うんですけども、地域ではやっぱりその子育てをしている大人がなかなか時間がないというか、一緒に取り組んで、一緒になって育てていくような感じがないとなかなか難しい時代だと思ってるんですけど。まずその学校もですし、地域もですし、大人の育て方の教育といいますか、やっぱりそのコミュニケーションを地域でやって、やはり町内会の行事があったりする時には盛り上がるんですね。お祭りだとか町内で取り組むとかそういう事で大人も成長すると。そういう事で子どもに教えてやれるようなものが出てくるんじゃないかと。それで今、私は普段医療をやってますけれども、昔だったらおじいちゃんおばあちゃんが知恵を持ってて、こういう時はもうちょっと待ってていいんじゃないかということをもものすごく不安になってパニックになってから連れて来られる方が多いですもんね。こども夜間センターだとか、熱がある子どもは来るんですけども、もうちょっと待ってたらいいんじゃないかという事も、時々感じます。大人も育ち、子どもも育ちというような事が何かできないかというふうに思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。皆さんからご意見をいただいて、地域のフォロー体制と、あとは特にお母さんに対するサポート体制なんだろうけど、一人で抱え込むっていう方も多いと思いますし、そこで吐き出せるような場ができるといいのかなと思ったりします。地域の繋がりを強化していくというのは教育委員会だけのことではなくてで

すね、今日もいますけど地域げんき課とか町内会、子ども会も含めて社会教育も含めてサポート体制を強化していきたいと思いますので、この件については、昨年度からもですね言ってますけども、何とか子ども会の加入率だけにとらわれずに、今ある組織体ですね、例えば健全協だったり松原、村川委員がやられているような新たな組織形態の在り方、町内会イコール町内会と子ども会だけに留まらず学校単位で子ども会を作るとか、子ども会じゃなくても社会体育という交流の場もあったりするので、そういった様々な団体の中でのサポート体制が構築されたいなと思ってますので、そこら辺は本当に自他のかけがえのない命を考えるとという意味についてもですね、しっかり体制を強化してまいりたいと思ってます。それともう一つは、私が思ってるのは私自身も精神科の医療に携わっていたので、最終的に自分の命をなくす場合に私の考え方として、自分で命を自死をされるような方が決して弱いとかじゃなくてですね、そういう状況に追い込まれてしまったという社会背景とか、その手前でサポートできなかったということもいつも思いますので、決してそういうことじゃなくて、相談するのが決して弱いことじゃなくて、恥ずかしい事じゃなくてサポートを受けられるような環境を作っていくというところですね、しっかり力を入れていきたいなと思いますので、地域も学校も家庭もですね、そういう雰囲気を作っていきたいと思いますので、今後もまた今回の事案も含めてですけども、しっかり進めて参りたいと思います。また皆さんからもご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に2点目の平成29年度の教育への取組についてというところで、前回の総合教育会議の中で少しご説明をさせていただいたかもしれませんが、3月議会において次年度にどのような形で教育施策に取り組んでいくか、もちろん教育委員会と共に進めていくかという事で、施政方針の資料をお渡し

をさせていただいております。ここにはその中に4ページに人を育む町というところの中に教育施策を書いておりますし、あとのページにも新規事業等にも記載を一部しているところがあるかと思えます。中にも書いております。こういった中で、特に皆様からここはどのような形で進めているのかとかですね、もっとこうした方がいいんじゃないとか、若しくは次年度に向けてこういう形で考えていくべきじゃないとか、皆さんから是非ご意見頂戴できればと思いますけれども、皆さんから何かございませんでしょうか。

企画政策部長 山下 健一郎

市長、ちょっと説明をいたしましょうか。それではですね、4ページをまずお開き下さい。先程市長が言いましたとおり、人を育む町という形の中で事業の内容を書いております。この4ページまるまる赤ちゃん、子どもを産むというところから入っておりますので、まず不妊治療の初回の治療費を全額助成しますというのが、1番頭にきております。次に子どもの貧困対策を進めるための生活実態調査を実施する。次が保育士を確保するために、保育士の市内施設への就職誘導を行う。また、保育士養成の新卒予定者を対象に市内の保育施設と連携した、保育士の卵ウェルカムツアーを実施をする。次いで子育て家庭の支援を充実させるために、病児保育の対象を小学校6年生まで引き上げる。学校や家庭で多様な教材を簡単に手にすることができるオンライン学習コンテンツの導入を行う。基礎学力の向上に繋げるという事でございます。また最後に学校不適應の生徒の問題に対応するため、精神科医をメンタルケアアドバイザーとして各中学校へ派遣をしますというふうに4ページでは記載しております。また関連する部門として少しずつ入っているところがございます。6ページをご覧ください。中ほど下段に近いところでございますけれども、スクールゾーンの件を書いております。住宅地域や小学校周辺などの交通の安全を確保するため、スクールゾーンに

ついて三城、放虎原、富の原、西大村の各小学校これまでやっておりますけれども、29年度は中央小学校周辺を整備をするというのを記載しております。また8ページでございますが、一番最後に引き続き県立大村市立一体型図書館及び大村歴史史料館の整備、今年度は図書館情報システムの構築に着手をするとしております。更に新規事業でございますけれども、16ページになります。真ん中の若年層就業支援事業という事で中小企業の人材確保や人材育成を支援するため、産学官が連携して高校生及び保護者を対象とした企業紹介や新社会人を対象に異業種交流研修を行うという事で、書いております。またその下には、中学校給食の導入について記載しております。以上、主な事業の概要説明をしておりますので、これに関係して職員も待機をしておりますので、ご質問、ご意見等があらればですね、言っていただければというふうに思っております。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。

教育委員 村川 一恵

何点かあります。すみません。病児保育の対象を6年生まで、すごくありがたいです。ありがとうございます。病児保育に預ける前に一度こどもセンターに行って申請を上げておかないといけないというのを、病児保育に預けないといけないという時に気づく事がよくあるんですね。事前に何かしらの説明をもうちょっと周知してもらえるように、小学校入学時、保育園入園時、幼稚園入園時とかに園や小学校とかそういう所から、早めの申請をしておいてくださいっていうのを徹底してもらえると、親も忘れずに済むかなと思ったりしました。ありがとうございます。次の4ページの下、精神科医をメンタルケアアドバイザーとして各中学校に派遣しますというのを、先程の話の関連になるんですけども、不登校に悩むお母さんたちのためにというところで、教育委員会がわたげの会っていうのを準備してて、不登校のお母

さん達、保護者を呼んで茶話会をしますよっていう、みんなで悩みを共有しましょうっていう場があるんですけども、そういうところにも、こういう専門的な知識を持った人がいらっしやれば、そういう時にはこういうアドバイスした方がいいよとか、具体的に話できないかなって思ったんですよね。ちょっと3か月もなかつたりするので、これは教育委員会側の問題になるんですけども、良かったら医師会に調整いただいて、そういう所に足を伸ばしていただけるように調整いただければと思います。

こども未来部長 川下 隆治

一応あの今回、就学、未就学から小学3年までということで現状やっておりますが、今回6年生までという事で、対象年齢の拡大の準備を今進めております。今おっしゃったとおり、事前登録が必要なんですけれども、緊急の場合はどうしてもすぐ必要という場合もございますので、ご相談いただければ基本はすぐに受け入れる事はできます。あとから事後の登録っていうことも対応しております。先程おっしゃったような事前の周知につきましても、更にいろんな形で工夫をしていけたらというふうに思います。ありがとうございます。

大村市長 園田 裕史

メンタルヘルスはどうですか。

学校教育課長 江浪 俊彦

この事業は新規事業でありまして、初めての事でございます。ですので、まずは学校で定着ということを考えております。わたげの会を夜に開催をしております、今のところSSWとかそういった関係者も参加をしておりますけれども、メンタルケアアドバイザーについては、学校の方の定着という形で進めていきたいというふうに思っております。

教育委員 村川 一恵

6ページのゾーン30でございます。もともとある所のメンテナンスも一緒に進めてもらってるん

だろうとは思いますが、ちょっと道路の線が薄くなったりしてる所もあるので、そういう所も学校の方に聞いてもらいながら、進めてもらえればなど。メンテナンスもですね。

大村市長 園田 裕史

30の位置が薄くなってる。

教育委員 村川 一恵

30の位置、そうですね。道路の線とかですね。

大村市長 園田 裕史

白線ですね。

教育委員 村川 一恵

あとすみません。これは個人的な要望にみえるんですけども、新規事業の中にデジタルアートによる観光客誘致っていうのがあって、大村公園などでの最新デジタルアートなんですけど、これ猪子さんがされるチームラボの件なのかなと思ってるんですけど、ぜひ猪子さんを子ども達に会わせてもらえればなと思ったんですね。講演会はあえると思うんですけど、大村公園周辺の小学校とか中学校でいいと思うんですけど、こんなすごいことをしてる人が近くで見たら普通の人なんだっていうことを、子どもに知ってもらいたくなって。そこから、僕にもできるかも、私にもできるかもって。美術とかアートが身近になるんじゃないかなと思うんですね。ぜひ、すごい人がすごいことをする時には子どもに合わせる機会を作っていたらと、これは親的な要望です。以上です。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。あと皆さんからないですか。

教育委員 永田 政信

私もゾーン30で。私中央小学校校区に住んでいんですけど、町内でもいろいろ話題に上りまして、ここはスピードを出してっていうような所がけっこう見られるから規制をしてほしいとかですね。なかなか、どこにお願いをしに行ったらいいのかというようなことも、けっこうあります。これを見せていただいたらお願いがし

やすくなったなどかですね。それから、ちょっと中央の方から外れてるんですけど、離れた場所にも拡大していただけるようお願いあたりもできるのかなと思って読ませていただいたところでございます。

大村市長 園田 裕史

最初ですね、長崎県内で初めてが大村で三城小学校の周辺をゾーン30にして、あれが4、5年前だと思っておりますけど、ちょうどそこからですね、今その効果が出てきているということで、ここ最近新聞、全国紙でも取り上げられて、大村市は先進的に取り組んだこともあって今度で5か所目になりますから、今、永田先生がおっしゃったように、更にこれをですね、さっき村川委員も言われたような白線が消えてる所も含めて補修も含めてですね、ちょっとエリアの中身も含めて実施してみてもうだったのかというのを振り返る時期にきているのかなと思いますので、ちょっと進めてみたいと思います。ただですねエリアを選定するからですね、なかなかこう、もうひとラインまで増やしてしまうと幹線道路にかかったりですね、けっこうエリアの選定が難しかったりもしたんですよ。そこはあるんですけども、ただちょっとそこら辺も協議をしていきたいと思っております。皆さんないですか。不明なところとか。

教育委員 佐古 順子

4 ページの最後に専門家を中学校に派遣しますということですが、以前不登校の現状把握に基づく対策の推進というところで事例の検討会などに専門家も参加していただいて、アドバイスをいただくってお話を聞いたことがあったんですけども、そこら辺も含めて詳しく説明をいただきたいなと思います。

大村市長 園田 裕史

ケース会議みたいな時になってことですか。

教育委員 佐古 順子

そうですね、不登校児の中学校のって聞いたんですけど。

大村市長 園田 裕史

この総合教育会議の中ですか。教育委員会で。

教育委員 佐古 順子

教育委員会で。

学校教育課長 江浪 俊彦

各学校の色々な事例検討会というのは開催をしております。例えばそういった中に、学校の職員だけではどうしても対応できない時には教育委員会の方のカウンセラーに入ってもらって、あるいはこどもセンターの方から専門家に来ていただいてというようなこともございます。また個々に、このねらいを定めてというような検討会議という事も考えられますので、そういった時には関係機関集まって実施をしていくというような事も行っております。ですので、各学校色々なケースがあるということでご認識いただければなというふうに思いますけれども。

教育委員 佐古 順子

ですので、この問題も生徒の問題に対応するためってことですので、そういう会とかで専門家をお願いするってことで、そこで個人的に相談をするとか何とかじゃないわけですよ。

大村市長 園田 裕史

そうですね。

教育長 遠藤 雅己

これについてはですね、スタートしたばかりですので、例えば中学校へ派遣しますってありますけど、これは6校区に派遣ですので、例えば今回は学校ごとにですね、どこの小学校で次回はやりましょうとか、そういう柔軟性も持たせています。

それから、直接親が来て子どもの相談をするんじゃないくてまずは学校の中で先生方がいろんな子どもを指導しておりますので、その中でいろんな症例を精神科医の先生方にお聞きして、その方向性をご指南いただくというふうなことで、決して自分の病院にいらっしやいよとかございませんので、この子についてはこのような症例でやった方がいいんじゃないですか、指導でどうでしょう

かとか、そういう簡単どころから詳しいところまでやっていけるような状況にしております。この後ろにはですね、長崎大学が精神科の方がバックアップしてくれておりますので、先程あったような、もっと広くですね、いろんな講習会とか開く場合にはそちらの方も養成できるような形になっておりますので、まだそちらの方が表に出てきてませんが、きちんとバックにはそこが控えておりますので、そういうことでご理解いただければと思います。はい。

教育委員 永田 政信

施政方針ですよ。一番幹になる分ですよ。私はこの中で人を育む町づくりの中で教育の部分をですね取り上げてくださって、本当にありがたく思っておりますので。教育委員会がやるのは当然なんですけれども、市をあげて義務教育又は学力向上の方に力を注いでいきますよっていうふうな意思の表明なのかなっていうふうに思っていて、市民の方もこういうふうにご考慮されるんだなっていうふうなことをですね、皆さん思っておられるんじゃないかっていうふうに、ありがたいことだと思いました。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。私からもですけども先程教育長からもご説明いただいた、メンタルケアアドバイザー、佐古さんからもあった件はですね、まずは学校の先生方にアドバイスをしていくというところがあって、学校現場の中で適切なアドバイスによって子ども達が救われるってことももちろんですけど、現場で一番接せられる先生方に対するスキルアップというところも、もちろん第一義的にあるんですけど、もう一方で副産物としてやっぱり先生方の負担っていうのはものすごく大きくなってきていて、病休されている方もたくさんいらっしゃいますし、まずは先生方が元気であってほしいなという思いもあって、副産物として先生方の負担の軽減というところちょっと語弊がありますがけれども、そういったことも私としてはです

ね意図としてはあります。それは先程教育長が言われたみたいに、バックアップに長崎大学がちゃんと入ってレジデントをしっかりと構築をすることで、それがまた次の展開に繋がると思っていますので、そういった意味では長大がバックにいらっしゃるということもありがたいですし、医師会も本当にご理解ご協力のおかげでですね、渡邊先生はじめ医師会との取組ということで全国的にも非常に珍しい取組でもありますので、しっかり成果を上げていきたいなと思っています。あと永田委員から、村川委員からもありましたけれども、一連子どもが生まれてから育つまでっていうところで、非常に私としても教育施策を施政方針の中に思いつき盛り込ませていただきました。1年間皆さんと一緒に議論をさせていただいた中で、学力向上というのはもちろんベースにあるんですけども、そのことだけじゃなくて環境整備をしようという事で学期検討委員会等を今年度取り組んでいただきますし、学力だけじゃない生きる力とか創造性豊かな学習というところでは、先程のチームラボの猪子さんというところも、創造性をどういうふうに子ども達が身に付けていくかっていうところもあって、単なる観光施策だけじゃなくてですね、そういう猪子代表とか今回の一連のイベントということについても子ども達の学習にも繋げていきたいというふうにも思っています。いずれにしてもですね市のこれからの在り方として、2025年までに人口10万人を目指そうという形で総合計画を我々策定をしていて、その計画に当たって残り8年、7年というところになります。その中でたくさんですね新しい新規事業も取り組んでここに書いていますが、やはり次年度は特にそうだと思うんですが、そうなると思いますが、教育を本当に柱にしてですね更なる若い世代も含めた形で転入、人口増に繋げていきたい。大村で子どもを産み育て、そして住み続けたいと思っていただけるような形にしていきたいと思っておりますので、年度当初に言う事ではないかもしれませんが、

次年度は更に思いっきりですね、教育に注力した形にしていきたいと思っておりますので、ぜひ皆さんからまた、これまで行ってきた施策の充実と新たな施策のことについてもですね、ご提言いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。それではですね、時間もありませんので次の議題に移りたいと思うんですが、次は前回からの引き続きで、大村市の教育大綱に沿ってですね議論をしていっております。議論と言いますか、皆さんからご意見いただいております。ちょっと先に申しますと、一応今日ですね総合教育会議の中で教育大綱の第4までいきたいと思っております。これが今日が終了しますと教育大綱を一応全部皆さんと意見交換したということになりますので、次回の総合教育会議から更にテーマを1つとか、そのことについて深く議論をするという形にしていきたいと思っておりますので、まずはですね項目の4までを皆さんと共有するという意味でですねいきたいと思っております。そういった事で教育大綱の3、自分らしく生きるための学びの支援についての、自らの生き方の選択を可能にするための知識・技能の習得についてという事でございます。本市で実施している職業教育、職場体験などについてと、本市で実施している社会教育について資料6にございます。ちょっと資料6について簡単に事務局から説明いただければと思います。

企画政策部長 山下 健一郎

それではですね資料6について簡単に説明させていただきます。まず1枚目の方ですね。上の方に題目を書いていますけれども、中段3段目に本市で実施している職業教育・職業体験などについてというのが2つあります。商工振興課と学校教育課のものがあるということで、商工振興課の分についてはですね今日商工からも来ておりますので、聞いていただければというふうに思っております。これは先程ちょっと言いました29年の新規事業として、高校生を対象にしておる職業、会社概要説明という形になりますが、これを義務教育とど

う結び付けていくかというのが課題かなというふうには思っておりますが、まずは高校生を対象にやるということを記載しております。次の真ん中のところにあるのが、本市で実施をしている社会教育についてということなんです。これについては社会教育課の方で年度当初の目標等も定めておりますので、そちらの方で、もしお聞きしたい事があればですね、聞いていただければというふうに思っております。また右端2つでございますが、芸術、スポーツ活動の支援という事で文化振興課で担当している芸術部門、あるいは市長部局にありますスポーツ振興課で担当してありますスポーツ部門ですね、こういったものの取組を書いておりますので、こちらの方でも市長部局の方で特に来ておりますので、お聞きしたいことがあれば聞いていただきたいというふうに思います。2枚目をお願いいたします。こちらの中の左端いわゆる伝統文化の継承という部分については、文化振興課の方でこれは引き続きやっている事業という事でございます。右側の方にあります外国語教育、本市で実施している取組については学校教育課の方ですね教育委員会の中でも論議をされていると思っておりますが、企画政策課の方でもこれについては実施しておりますので、市長部局の企画政策課の職員もおりますのでこの中で具体的なことをお聞きいただければというふうに思います。以上でございます。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。今事務局からですね協議事項の3の大綱の3、自分らしく生きるための学びの支援についてというところと、4の歴史伝統を尊重すると共に多様な文化、価値観を学ぶ環境作りについてというところで2つ一緒にですね説明をいただき、資料をご説明させていただきました。ぜひこの中についてですね、皆さんからご意見を頂戴できればと思っております。

企画政策部長 山下 健一郎

まずは新規事業をちょっと説明をいたしましよ

うか。商工振興課の方をですね。

商工振興課長 浦山 優

まず商工振興課のですね、1番のところですね。大村市会社概要説明会という部分ですが、昨今ですね大村市に残られる子どもさんが少ないということで、やはり市内の事業者さん中小企業さんも非常に人材不足という事で非常に困ってらっしゃるとい部分もございまして、高校3年くらいになりますと、なかなかすぐに就職という事で遅いということですね、一応高校2年の段階でですね、事業者さんと子どもさんとマッチングします。マッチングというか1回顔合わせをさせてですね、そこでももちろん保護者も一緒にいただいてどういった企業があるかというのを知っていただいた上でですね、今後の就職活動に役立てていただくと。ひいては大村市に残っていただいて大村市で仕事をしていただくという事で新規事業として商工振興課として設定をしております。以上です。

大村市長 園田 裕史

一連の施策等を表にまとめておりますけども、皆様から何かご質問とかご意見等はございませんでしょうか。はい、どうぞ。

教育委員 佐古 順子

今のところで説明いただきまして、それともう1つ、新社会人を対象に異業種交流研修を行いますというのがあるようだったんですけど、それは具体的にどんな感じですか。

商工振興課長 浦山 優

あのですね、異業種交流会というか市内の中小企業様がなかなか小さい団体でですね、新人職員さんの研修というのは非常に厳しい部分がございます。実は昨年度の中小企業振興会議という中で議題に上がりまして、その中でいろんな中小企業の方達、入られた新入社員さん1年目の方を対象にしてるんですけど、場合によっては2年目、3年目の方もよろしいかと思うんですけど、そういった方達にですね、マナー研修というの商工会議所さんであるとかですね違う団体で研修されて

ますので、いわゆる働く社会人としての心得とかですね、そういった精神的な部分の研修を新人職員さんに対して実施するという事で、実は今年度もですね6月5日、もうすぐなんですけども今各事業者さん、市内の事業者さんに声かけをしまして実施する運びでおります。一応そういう内容で進めていく予定でございます。よろしいでしょうか。

教育委員 佐古 順子

ありがとうございます。

大村市長 園田 裕史

どうぞ。

教育委員 村川 一恵

先程の高校生の市内企業のPRに関連する事で、これは各企業もいろいろ努力をしないとイケないこともあるんだろうと思うんだけど、会社とか企業とは別に大村にいて仕事をしつつプラスアルファのこういう楽しみがあるよっていうのを、市民とかから発信していかないと大村に残る意義っていうものを子どもは見い出せないかなと思ったりするんですね。子どもはやっぱり福岡だったり東京だったり都会が魅力的で、給与も良ければそちらに行きたくなるんだろうと思いますので、給与とかでは敵わないかもしれないけども、プラスアルファの人生こんな楽しみがあるよっていうのを何か打ち立てていけるように、企業や行政や市民で何か考えていくことも必要なんじゃないかと思ったりもしました。学校教育課の中にぜひ入れてもらいたいのが、子ども議会が今度あると思うんですけど、こういうのもきっと職場体験の1つじゃないかと思ったりするんですね。参加を希望する子どもが対象になるんですけど、ぜひ色々な事を経験させたい。1日市長代行とか消防署長とか警察署長とか、そういうことができれば、もっと夢も広がるだろうと思うんです。こういうことをどんどん広げたら学校教育課は大変になるかと思うんですけど、準備をする方は大変になるかもしれないけれども、いろんな場を子ども

も達に用意する体制を行政側に求めたいです。以上です。

学校教育課参事 本多 修司

子ども議会は、夏休みに実施をすることで考えています。今年は小学校5年生から中学校3年生までの25名の議員ですが、その議会を見に来てくれる子ども達にも今後声をかけたいと思っています。貴重なご意見ありがとうございます。

大村市長 園田 裕史

昨年子ども議会を初めてしたんですけど、中学生を対象にしてしたんですけど我々もちょっとタジタジになるような感じで、学校の先生方がもちろんレクチャーとかですね協力をしてくださったと思うんですけど、ただ最初の発想だったりアイデアというのは子ども達が感じたものだと思うんですけど、本当に面白い提案から厳しい指摘からありましたので、議会に対してまた行政運営教育施策に対してですね市民の皆さんに興味関心を持っていただいて非常に貴重な事業だなと思っていますので、今年また次、委員の皆様にも傍聴に来ていただければと。昨年中学生だったのを市民の皆さんからも小学生もどうかというご意見もあって、教育委員会でもすぐ対応していただいてですね今年5年生からという形で幅を広げていただいているので、そこもまた面白いと思いますので、ぜひまたよろしくをお願いします。

教育委員 永田 政信

キャリア教育について言えば、得てして中学校あたりから進路と結びつけたことが語られますけども、決してそうではないなというふうに私は経験上思うんですけども。小学校からもきちんとした職業観とかそういったものが育つんだろうなと思います。私は各学校で体験の場をですねたくさん作ってもらいたいなと思います。学校教育課長さんは竹松小学校から来られましたけども、竹松小学校では今も続いているのかわかりませんが黒田五寸人参を育ててるんですね。そして地域学

習という一環なんですけど、その黒田五寸人参を畑を耕してから収穫、販売までの一連の学習で取り組んでおったんですけど、収穫の時期っていうのは冬の寒い時期ですよ。1月とか2月とかそういう時期になるんですけども子ども達にとつたらですね、自分たちで種から育てた人参っていうのはこんなに小さい物でも大切なんです。それを商品化するためには寒いで水洗いをしないといけないんですね。水洗いをして本当に冷たいんでしょうけど手は真っ赤になりながら一生懸命洗うんですね。それを見ていたときにある子どもがですね、こんな事を言ったんですよ。「校長先生、仕事をするってお金だけではないんですよ。」って言ったんですね。その子には何がしかが宿ったんだなと思ひまして、そういった体験を通してそういう物に感じていくというんでしょうか、そういったことは大切なことじゃないのかなと。それが膨らんでいって中学校、高校って膨れ上がっていくのかなって思うんですね。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。よく市議会の中でもキャリア教育の話が議題になりますし、議会からの提案もあって新しい取組を始めているところなんですけど、教育長ともその話をよくして小学校からとかですね若年層からいろんな体験とか人ですね、先生が言われたような。こんな仕事をしている近所のおじちゃんとか、そういうところから、あのおじちゃんこういう仕事をしてるんだとか、自分の身近な人の仕事の内容を知るとかっていうことからそういう体験ができるのかなと思うので、そういうところは更に進めていきたいなと思います。あと村川委員も関わられてるのかな、子ども食堂って大村市の取組がありまして、大村市の子ども食堂は貧困の子ども達にどうのこうのっていうことじゃなくてですね、居場所作りって形で民間のサークルの方達がされているんですけど、これに関わられてる代表をされてる田崎さんという農協の若い青年農業者がいるんですけど、その方

が農協と竹松小学校ですよ、先程永田委員が言われた竹松小学校の黒田五寸人参とかの取組をそのまま収穫した物を子ども食堂の食材として使ったというような取組があって、これが昨年度日本一にですね農協の大会の発表の中で日本一になりましたので、こういったこともまた子ども達にも知ってもらって農協青年部の方々も日本一になったものだから更にまた気合いが入って取り組んでいきたいとおっしゃっているので、いろんな学校でそういう体験ができるといいなと思います。私も三城小学校でちょうど私の自宅の裏がですね、お米を収穫する体験ができてたんですけど、家が建ってしまいして、なかなかそういう所がなくなってきてるところもあるんですけど。ぜひそういった体験はですね、職業体験のみならず進めたいなと思います。

教育長 遠藤 雅己

今週月曜日、市長と私と政策監で知事と会ってきました。知事と15分の約束が延びましたね。30分以上になってですね。その内容がですね、人口流失失どのようにしていくか。大村はうまくいってるよねと市長が。また先を走ってくれないかと言うふうな言い方だったと思いますし、なかなかですね知事の方はうまくいかない現状に歯止めができないというようなこと、それから企業が海外に目が向いてない。だから英語教育も進んでない。そういう言い方ですね。私の方からどがんねと言われたので、私はもうキーワードは女性の働きやすい環境を作っていくこと、特に花の町と技術の町としては工業女子の育成をせんばいかなですよというような偉そうな事を言ったんですけど、昨日ですね工業の会長と話したら、知事からの話こうだったよ、うまくいかと話したらですね、私もですね女性が働きやすいような環境を作ってですね、昔はディンクスって言ってダブルインカムノーキッズだったんですけど、今からはダブルインカムのアルファ、無限大のキッズを持つというようなことで、なにしろ女性が働きやすい共働きし

やすいような環境を作らねばだめですよと。そうしないと歯止めできませんよという話もありました。知事の方もですね非常に迷って市長に大分質問をされてましたけど、うまくいってるねってですね。今からじゃないかなと思ってましたですね。以上です。

大村市長 園田 裕史

私の思いとして、まずはこの施政方針もそうなんですけど、まずは大村を知ってもらって見てもらいたいっていうのもあるから、いろいろ新しいことをですね飛んで跳ねていろいろやったりしていかんばいかんて思いで今年度やってるんですけど、やっぱり次年度に向けて教育というものを1つの柱に、大村市は教育施策がっていう形で考えていく。それが結果的に人口増だったり新たに交流だったり、交流が育まれると地域の経済が活性化したりということにあるので、それは教育長が言われたみたいに女性がいかに働きやすかったところの視点もありますし、そこは山下部長の所が所管してる地方創生と言われるようなですね、今後の街づくりのあり方にも大きく反映をしていきたいなと思ってます。それともう1つ、くり返しになるんですけど、決して大村市が学力が低いわけじゃないですけど、更に学力向上をとってところで上げてはいますし、そこはしっかりやります。ただ学力だけじゃないということ言うと、大村市の強みはやっぱりですね、スポーツと芸術というところは非常にやっぱりね長けていると思うんですよ。これは本当に皆さんのこれまでのご努力のお蔭だし、その指導力の向上というものが10年20年30年と積み重なってきたものだと思います。市民功労表彰とかスポーツ表彰のときに、教育委員の皆様にお知らせさせていただいてるかと思いますが、毎日のように全国大会、九州大会に行って来ました、優勝して来ましたって子ども達が来ます。これは本当にすごいなって思いますし、プラスバンドについても文化芸術についても、昨年度は西中、桜が九州大会マーチングで。大中、

郡中はブラスバンドで九州大会。そういったこともあって、長崎県全国的にも有名な活水女子学院の藤重先生が毎年シーハットでそういったイベントを開催してくださってますし、そこら辺についてはですね、今まで福祉が充実してるって言われてるようなのが他市からの認識だったかもしれませんが、それに加えて子ども達の文化・芸術・スポーツがすごく良い環境にあるっていうのが教育の街としては本当に素晴らしいし、副産物として更なる人口増にも繋がると思っていますので、しっかり進めていきたいと思えます。佐古委員にお聞きしたいんですけど、芸術家っていうか子どもがですね芸術を身に着けるっていうのは本当に興味を持つっていうのは、どういうところから持たれるのかなって思ってますね。

教育委員 佐古 順子

ブラスバンドとかも大村市はとてもレベルが高いと思えます。やはり指導者のお力だと思えます。やはり他県に遠征に行けば上手な方の演奏を聞いて、またさらに目標ができて。やはり大海を知ることですかね。先程、市の活性化に向けてとても役立ってるとおっしゃってましたけども、子ども達がそうやって大村市で生活できて、とても充実した環境にいるということと思えます。それとあと1つ、脳科学者の茂木さんが、この土地は素晴らしいですねっておっしゃって。みどりの葉っぱが素晴らしいっておっしゃったですね。こういう所で子育てをすべきであると。ここで子育てをしたら立派な子どもが育つって講演会の中で、さくらホールでありましたですね。友人達にもどうして大村に家を建てたのと聞きますと、野菜が素晴らしいとかですね、最近は長崎あたりからでも週末に野菜を買いに来るとかですね。いろんな観光名所はないかもしれないけども、農作物を充実させることによって人を呼ぶことはできるんじゃないかなと私はいつも思っています。子ども達が技能習得のために努力できる環境。そこはやっぱり大村の素晴らしいところですね。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。文化芸術も音楽もですね、それこそ本当この、前シーハットの館長をされていた村嶋先生とかですね、地道にずっと取り組んでこられたりとかもあって非常に根付いてきてることも今たくさん花を咲かせてきてますので、そういったところにもしっかり力を入れていきたいと思えます。あともう1つは、ちょっと私から英語のことについてなんですけど、前松本市長時代からですね英語に対してもものすごい力を入れようということで、松本市長は英語をしっかり喋られて私はまったく英語できないんですけども、恥ずかしいんですけども、ALTをですね県内で最も率として県内で1番生徒規模に対するALTの配置が県内で1番です。それで今後ですね、外国語教育っていうのはずっと数年前からモデル地域を指定して取り組んできてもらってきているという事もあります。セッかくこれだけ姉妹都市があったり、いろいろ交流している所もあるので、それについてもですねもう1歩踏み込んだ形で英語教育というものに取り組んでいけたらなど。新しい学習指導要領が交付されてますけども、その2020年をにらんでということももちろんあるんですけど、それだけじゃなくてですね、セッかくここまで独自の取組を進めてきたこともあるので、もう1歩ですね学校で学ぶだけの英語教育じゃなくて、先程言われた皆さんから今日たくさん出た交流も含めた形の英語の教育のあり方をちょっと考えることができないかなと思っておりますので、その点についてもまたしっかり、今年度前半にですね教育委員会と共にですね協議を進めていきたいなと思っております。ちょっと追加で申し訳ないんですけど、セッかく図書館が2年後ぐらいには開館できるのかなと思っておりますが、その中に歴史史料館が開館いたします。大村市歴史史料館が開館いたします。新たに文化振興課の課長に大野課長、学芸員さんですけども課長に就いていただきましたし、郷土史というのは本当に大村市

素晴らしいものがありますので、これをいかに子ども達が身近に感じて知りたくなる。これまでも郷土史クラブとってすごく素敵な取組をされてるんですけど、そういったところも含めてですね、取り組んでまいりたいと思っております。すみません、今日ちょっとバタバタの中でですね会議を進めてまいりまして、もう少し言いたいこともあられたと思いますけれども、バタバタで進めてしまつて申し訳ありませんでした。ただですね、今日この総合教育会議でですね一応一連の教育大綱の項目4まで一応一通り皆さんと意見交換、共有ができたという事になります。くり返しになりますけど、次回にですねまた、これまで1年間通してやってきたことの中で、ここだつていう所をテーマにさせていただいて、そのことについてちょっとざっくばらんに深掘りしていってですね、それで進めて次年度以降の教育施策に繋げてまいりたいと思います。なお今回これまでシリーズを通してきた内容をもう1回事務局と教育委員会と詰めていってですね、次回開催をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

企画政策部長 山下 健一郎

それでは、私どもの方で後の進行をさせていただきます。今年度ですけれども、開催予定を8月、11月、2月という形で進めたいと思っております。次回なんですけど8月につきましては、定例教育委員会と調整がなかなか難しいという状況でございますので、私どもの予定としましては8月30日の水曜日13時30分からこちらというふうに思っておりますが、委員の皆様はいかがででしょうか。特にございませんでしょうか。そしたら一応8月30日、場所もこちらという形で準備をさせていただきたいというふうに思います。次回会議の開催テーマにつきましては、先程、市長が言いました通り、1回教育大綱が終了いたしましたので、教育委員会と調整をしながらしっかりとテーマを市長と一緒に協議をしていきたいというふうに思っております。後日連絡をさせていただきます。以

上で終了となりますが、何か委員さんの方から、これだけはお伝えしたいということがございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは平成29年度第1回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。